

豆狸の寝言

副会長 三原幸二

去年の7月にインドネシアのバリ島へ行ってきました。二か月後の九月に大きなテロ事件があり、たくさんの人々が尊い命を失いました。悲しい出来事です。こういった事件の諸悪の根源は貧困問題にあるようです。

五日間の滞在中、ジョグジャカルタにあるポロスドールに行ってきました。ポロスドールはジョグジャカルタの北西約四十キロメートルのところにあるインドネシア最大の大乗仏教遺跡です。ヒンドゥー・ジャワ芸術の開花した八世紀前半から九世紀前半にかけて造られた石造遺跡で、百二十メートル四方の基壇上に六層の方形壇、三層の円壇が載り、最上層には中心仏塔を載せている。全体の高さは四十二メートルあるそうです。一九九一年には世界文化遺産に登録されております。

そんな素晴らしい遺跡を見た帰り道、信号待ちをしていた我々の車のところへ一人の老婆が物乞いにやってきました。するとガイドの青年がポケットに手を入れて何がしかの小銭を老婆に渡しました。私はびっくりしました。当然、無視するだろうと思って



いたのです。と言いますのは、彼のその日の日当を知っていたからです。朝早くから夜遅くまで働いて千円だということを。車が動き出してからその事を青年に言うと、困った時はお互い様です、とこともなげに言いました。時々バリ島での思い出を振り替える時、カタコトの日本語で一生懸命説明してくれたガイドの青年の横顔が浮かび、なぜあの時、私もポケットに手を入れなかったのかと悔恨の念しきりです。

(ボロスドールで考えたこと)